

知恵を出し合い健康づくり

「アトピーの子の食事で悩んだら知らせてね。苦労体験を出し合って助け合いましょう。」—コスモスキッズでは一緒に勉強をして地道な活動をしています。

鯖江市の世帯数は約2万。この20年間で5千以上も増えましたが、世帯内の人数が減り、家族内で支え合う力が弱まっています。

おまるを持って歩く若いお母さん、紙おむつを外せないののでおしっこが言えない子どももいます。



親子で交流を深めるアイアイキッズ

子育てに悩むお母さんを、地域で支援する環境づくりが大事です。

「食べない子、寝ない子をどうする」—母乳から育児全体まで話し合うチュウバ・パクフレンズ。双子ならではの子育ての悩みを話し合うさくらんぼキッズ。入園前の親子が楽しく遊ぶ機会をつくり交流を深めるアイアイキッズなど、すばらしい自主グループの活動が光っています。

「お元気ですか」—一軒ずつ家庭訪問して声掛ける。赤ちゃんからお年寄りまで、町内みんなの健康に気を配り、健康診断・ガン検診や研修の参加を勧める愛育会、336人の市民健康推進委員の活動は尊いものです。

すこやか教室は、寝たきりや痴呆の予防などに25年も活動しています。

市民の健康を守る費用は、平成13年度で6億4千万円。今、みんな考え支え合おうと、地域の連帯の輪が根強く広がっています。